

【日本語語要約】

プロバレエダンサーにみられるキャリア実践の自己認識—ダンサーの言説の質的分析から—

氏名 徳岡（原） みなみ

本研究は、文献調査とインタビューに基づいた質的分析から、主役経験をもつプロバレエダンサーが日常的な練習から舞台上演までを含めた一連の実践に対する自己認識に着目し、その変化の様相を明らかにすることを目的とする。

先行研究では、バレエという芸術領域の文化的特色、プロバレエダンサーに特有の身体的特徴や能力、またバレエダンサーとしてのアイデンティティの形成過程などが対象となってきた。一方で、バレエ団に所属するプロダンサーになったあとの実践を対象とした先行研究はなく、著名なダンサーによる手記やインタビュー記事で体験談として記されるにとどまっている状況であることが指摘されてきた。

そこで、本研究では、プロバレエダンサーのキャリア構築過程における実践をキャリア実践とし、文献調査とインタビューによる質的分析から、プロバレエダンサーのキャリア実践における自己認識の様相を明らかにすることを目的とした。

第一章では、バレエダンサーを対象とした文化人類学、社会学、舞踊教育の観点に基づいた先行研究、またダンサーの手記やインタビュー記事に基づいて、プロバレエダンサーの職業特性を明らかにした。文献調査からは、プロバレエダンサーは、バレエに適した資質やバレエの高度な技能を有している点、バレエの理想やバレエダンサーらしさの実現に向けて取り組む傾向、バレエ界の慣習やバレエ団のレパートリー等の環境要因にキャリアの発展が影響されることが職業特性として確認された。これらの特質は、プロバレエダンサーであれば普遍的に有する可能性が高いものであると考えられる一方で、ソリストやプリンシパルの上位階級にあるダンサーに特有な性質がある可能性が示された。

第二章では、熟達化やタレント育成に関する先行研究に基づいて、プロのキャリアを通じたバレエダンサーの自己認識を捉えるための研究視点を得ることを試みた。舞踊に関連する事例に加え、その他の上演芸術領域としての楽器演奏、演劇、また、芸道の型習得からさまざまな表現領域における習得と熟達に関する先行研究を対象とした。第一章のプロバレエダンサーの職業特性と第二章での文献調査を踏まえ、熟達したプロバレエダンサーの特色は以下の5つにまとめられた。

1. 自らを客観的に捉え、自らの踊りを修正する能力を獲得している
2. 舞台上で優れたパフォーマンスを行うための要素や知識を獲得している
3. 主役を務める上位階級のダンサーに特徴的な発展が存在する
4. 個人の成果に限定されない視点からプロバレエダンサーとしての実践を捉えている
5. バレエの伝統や価値観を踏まえたダンサーの独自性を見出す過程がある

第三章では、日本人プロバレエダンサーを対象としたインタビューの質的分析を行った。

SCAT 分析を用いて、ダンサーの言説からプロバレエダンサーの実践の特色を抽出し、その過程で作成されるストーリーラインから変化の様相を明らかにした。プロバレエダンサーの実践の特色は、レッスン、リハーサル、舞台それぞれに特有なものもあれば、より良い舞台を実現するための実践といった全体的な特色も確認された。また、プロバレエダンサーとしての経験や、バレエとは直接関連しない経験によってプロバレエダンサー特有のスキルや知識、また価値観が獲得されていく可能性が示唆された。ソリストやプリンシパルの階級にあるダンサーにおいて、公演活動の蓄積は、各階級でのより良い実践に重要となる取り組みや意識を明確にすることが示唆された。

第四章では、文献調査とインタビューにもとづいた質的分析を踏まえた総合考察を行った。二章の文献調査からまとめられた熟達したプロバレエダンサーの特色は、質的分析においても確認された。プロバレエダンサーは、階級において取り組む実践から、スキルや知識の獲得とキャリア実践に対する理解を形成していることが考えられた。また、階級の昇進に伴い要求される水準が高くなり、そのための試行錯誤を通して、実践に対する認識も明確化されていくことがプロバレエダンサーとしての発展に寄与していると推察された。特にソリストやプリンシパルでは、主役経験を重ねていくことで、自らの表現、また表現に対する理念が明確化されること、また、バレエ団を牽引するリーダーとしての体験的理解を獲得していく可能性が示された。さらに、バレエダンサーは、プロとしてのキャリア形成の過程で、バレエ団内外での社会的立場を形成し、時には昇格などの転機を通して、社会における自らの存在意義に関する認識を再構築していることが示された。

以上を踏まえ、プロバレエダンサーのキャリア実践は、公演活動の継続と階級に特有の実践を通して、プロバレエダンサーに求められるスキルや知識の獲得と、キャリア実践に対する体験的理解の形成を繰り返す過程であると結論づけられた。主役を担う上位階級のダンサーに至る過程で、階級ごとの実践や役割に従事し、自己認識が明確化されることで、独自性を含めたプロバレエダンサーとしての総合的な発展を遂げていると考察された。